

資料編 その1

市民の声

001 [まちづくり市民会議メンバー]

002 [パブリックコメント(市民意見の公募)]

003 [説明会・懇談会]

001

まちづくり市民会議メンバー

やる気と活気（生：萌^{もえ}黄色）

若者が元気なまち	お祭りイベントを増やして、活気を取り戻し、留萌が楽しいまちになればいい。駅前や商店街などを使って、お金をかけず、知恵を出してやっていけばよいと思う	都市計画をし直し、都市機能を集約した小さなマチを作る
若者が働く場が多いまち	留萌市内で何か（イベントなど）をやること、それを全道全国にアピールしてはどうか	都市マスは、街並みは時代とともに変わるので、そのつど見直しが必要だ
若い人が夢を持てるような、何かがあるまちになればよい	今は、留萌のまちに他のまちの人を呼ぶ力はない。まず、内輪が楽しめる何かを考える必要がある	歩いていける範囲で生活必需品がまかなえるような（高齢になっても歩いて生活できる）、コンパクトなまちづくりが必要
イベント、お祭りなどに積極的に参加できるような、参加したくなるようなまち	徒歩でゆける商店街を各町内周辺に復活させる	るもいの商店街は大型店に比べ、資本力が少ないので、大型店舗の参入にあたって、商店街との調整はできないのか
市街地の空閑地化に歯止めを！	P Mなどで、お金をかけない公園整備をもう一度みんなで検証したい	市営住宅は、高齢者は下の階、若者は上の階にするなどの配慮が必要
中心部に公共の憩息場所を作る	地域特色に応じた景観の創造、まちなみデザインの検証、まちのデザインやみどりの配置、るもいにあった空間の形成が必要だ	〔生産〕生産性のある事業の企画。まちの収入になる事業を展開する
御用聞き～商店と提携して低料金で請け負う業種があれば	〔人材育成〕人づくりに力を入れた事業の展開。民間企業を支援できるコーディネート機関としての行政を目指す	道の駅を！！

北海道の内陸や台湾などの海外との物流、貿易でも、企業や人材を育てる必要がある。そのために現状把握が必要である	財政難の中で、「今あるものへの支援が必要なもの」と「新しいものへの投資が必要なもの」を考える必要がある。商店街が何を望んでいるのか知る必要がある	生活環境はどこまでやっても足りないがない。個々で余裕があれば、融雪槽などを整備すればよいのでは
高規格幹線道路ができてきたので、何かこの路線にのった物流的な役割を果たすようなことを考えるべき	留萌に住むと決めた（腹をくくった）人しか住めない町（一部の富裕層と貧困層か？）	青少年事業の事業運営を町内会や学校に預けてはどうか

思いやりと安心（優：珊瑚色）

高齢者が楽に住める	お年寄りが独りぼっちにならない	高齢者の受け皿として、井戸端会議の出来る場があるといい
高齢者に優しい町内会づくり	高齢になってもずっと生活できる（雪、買い物・・・）	高齢化も考慮した、文化活動の場の提供を（市内に平均して数ヶ所必要）
高齢者がおだやかに余生を過ごせる福祉が充実したまち	町内会館などを利用して、歩いていける距離に一人暮らしの高齢者が時間を過ごす場所があれば、個々の暖房費の節約にもなり、交流したりできる	お年寄りが年々増えているが、健康で長生きできるようにする
車が運転できなくても暮らせるまち	高齢者が目標を持って生き、社会に参加することで、気力に満ちあふれ、元気になれる	託老サービスを受けるのが大変な高齢世帯も増えるので、2～300円程度で自分たちが茶飲み会（昼食づくりも含め）を運営
いくつになっても安心して暮らせる医療の充実したまち	大学病院などと連結するシステムづくり（遠隔医療）	地元の情報が当たり前知られるコミュニケーション型
市立病院に医師が定着し、安心して総合医療を受けられるようになる	外来は診療所、入院は市立病院、高度医療は大学病院という役割分担を明確にして、連携する必要がある。留萌市立病院を市民が守り、育てる意識が必要	FMもえるが聞こえ続けることで、留萌がどういうまちなのかを知らせることができし、知ってもらえる

かかり付け医や家庭医などの初期医療（プライマリケア）を充実させて、些細なことでも相談できるようになってほしい	診療報酬の増加に合わせ、さらなる医療の質の向上も求められる	町内会館を利用し、みんなで気軽に井戸端会議（情報交換）ができればいい
管内の基幹病院として高次元医療を提供できるようにする	F Mもえるが聞こえ続ける	今の町内会は、心の通いが無いと思う。まちとして、大切な単位である町内会を通して、住民の心を通わせたい
「あの病院は、ダメだ…」というのは、どこのまちにもある。留萌出身の医師が、留萌の病院で働いて、地元に戻すという発想はどうか	F Mもえるができたが、留萌の社会感覚を実感したり、共有したりできる情報インフラの整備、メディアの充実が必要	町内の中で、若い人と年配者が互いの顔が分かるような付き合いが必要
市民が主役の社会では、町内会の役割が重要になる。町内会との関係を遠ざけるだけでは進まない。強制的にでも関わっていくべきではないか。互いに顔が見えるように	役員交代が自主的に行われない町内会に、若い人を引き込むためのアイデアを出すべき	町内単位で、町内会館を利用した自主的で遠慮のない、昔ながらの近所づきあいに根ざした「心地よい居場所」を確保し、支援
町内会は、年1回の総会だけでなく、会合の回数を増やすなど、間口を広くして参加しやすい環境をつくる	そこに住んでいる以上、避けられない生活の環境がある。波風立てたくはないが、何でも言い合える関係づくりが必要	町内会で子どもの関心の高い行事をやれば、参加も増えるかもしれない
若い人と年配者のコーディネートする役割を町内会が担うべき	町内会で”なかよくする”ということは、会則を守るということ。前より良くなったと思えるようにすることが大事である	町内会の行事で、年配の方が昔の遊びを教えてくれるとうれしい
多種多彩、色々と頑張っている人たちが意見交換、交流のできる集まりの場の提供	町内会活動の重点をどこにしようか。例年どおりではマンネリになる。会長のやる気にかかってくる。役員は長くやればいいというわけではない。若い人が育たなくなる。トップのヤル気が重要となる	町内会行事の実行のためには、広報活動（PR）を十分に必要とする必要がある。ほかの町内会の活動も参考にすべきだ
思いやり、ぬくもりにあふれる留萌人がいっぱい！	健康診断の参加者を増やすには、町内会などの組織を通じて働きかけてはどうか	公園の花時計などシンボリックなものがあれば人も集まるのではないか
今後、世帯数がさらに少なくなるので、町内会相互の話合いの場が必要になる	向こう三軒両隣。健康でやすらぎと思いやりのある市（まち）にしよう	昔のご近所づきあいを呼び戻すべき

町内会は、若者を引き込む魅力的な事業をする必要がある（活動がマンネリ化してしまう）	町内会での活動の記録を残し、どう伸びているのかを押さえておく必要がある。次の人に活動を引き継ぐのに重要なこと	町内会は、一町内会ではなく、連合町内会などの大きな単位で役割を負うべき
地域のコミュニティがあるまち	この分野は、市民である私たち自身のことだから、我々が力を発揮しなければならない。私たちに責任がある。向こう三軒両隣の付き合いが大事だ	イベントに参加するきっかけが欲しい（大人一人だと参加しづらい）。参加ツアーや町内会ごとの参加など仕掛けが必要。参加の声かけが必要であり、重要
もっと若い人やお年寄りが楽しめるようにしたほうが良い	市民全てに健康診断の機会をあたえて、病気の早期発見など病気や健康への関心を高めるべき	空いている公共施設を利用して、高齢者の特技（修理、フリーマーケット、まちの案内など）を活かす場を提供してはどうか
たくさんの人同志が知り合いになれるまち	健康都市宣言をしたのだから、市民全体に広がるような取り組みをしたらどうか	泉町などで、実験的に地域通貨を導入している。その成果を知らせて、先駆者を講師にして学び、自分たちの活動に取り込んでいくべき
ボランティアは、責任を持ってやるべき。「自分ができるときだけやればいいや」、「行きたいときに行けばいいや」では、誰もあてにできなくなる	熱しやすく、冷めやすいミナト街特有の市民の特性が活かされる市民交流。お祭りなど	

自然と資源（地：つるばみ色）

地元の食材を活用した100%留萌の食もいい。美味しいものは、やっぱり美味しい	観光に力を入れる。PRのために、市民の知恵を出し合って、留萌の名物を作ってはどうか	外から留萌の産品がどう見えているのか、意見を聞きたい
地産地消	田舎の知恵をしぼり、商品開発に留萌のイメージを結びつける	自然エネルギー（風・波など）を利用した住みよいまち
〔地産地消〕地産地消を推進するまち。第一次産業の見直し（農業、漁業の活性化）	付加価値をつけた農水産物で外貨をかせぐ	人口減はエネルギー供給もしやすくなる。自給自足可能

酪農、そ菜、水産物、加工業、観光を各市町村の特産や個性を結びつける消費、販売網づくり、コーディネートする	地場産業の育成がポイント。地元で消費することもわかるが、留萌以外でどれだけ地場産品が消費されているのか調べてみたい	留萌は全体に産業に力を入れるべき。水産加工が大きくクローズアップされているが、それ以外でも何か優れた産業があるのではないか
農林水産業の一次産業と観光を戦略として魅力あるまち	地元食材で、料理上手なお母さん、お父さんが沢山いるまち	学校給食に地元の食材を使ってはどうか

暮らしと安心（守：^{しろがね}白金色）

各町内に融雪溝を作る	高齢者が安心して歩けるような除排雪を希望	街の城壁は自分たちで守る。“共働”でなく、“自立”
除雪などは、住民が意識を高く持つ必要がある。住民どうして妥協点を見つけ、ここでやるという『留萌のレベル』を見つけ出すのがポイント	子供の悲惨な事故や事件が多発しているの、地域が子供たちを守る必要がある	広域交通網が安全に活用されるようにする。冬期の閉鎖日数の予測をする
バイスタンダー(その場に居合わせた人)が救急救命を行えるよう養成する	救命技術の普及拡大	学校のアスベスト対策にはしっかりと取り組んで欲しい
町内会で、民生委員のように町内の世帯の実態を把握している人がいれば、防犯面でメリットがある	ゴミに対して責任、否責任が生まれた。生まれすぎたのでどうにかしたい	生活環境は重要であり、10年後どうしたいかという「自分たちなりのイメージ」を持つことが重要であり、まちの骨格になる
安全な食生活、居住ができるまち	協働で安全、清潔を維持すべき	

夢と宝（宝：^{こほく}琥珀色）

子育てしやすく、女性が活躍できる	子どもたちがふるさとで活躍できる風土づくり	子供が少なくなっているの、支援・援助が必要
------------------	-----------------------	-----------------------

障がいのある子もない子も、子どもらしくみんなで一緒に育っていけるまち	子どもの意欲を引き出す学校教育の創造	子供から高齢者までが参加できるイベントを作る必要がある
幼児のいる家庭は、住宅を安く手に入れられるように	子育ての面では、自然の中でのびのび育て、人格形成ができるようにしたい	子どもから高齢者まで、なにか共通の遊びができるようにする
未来を担う子どもたちの学習環境が充実しているまち	子供には、目指すべき目標や目的が必要。そして、競争心で人間力を高めることが必要	今の大人が子供のころ遊んだ「遊び」を継承していけたらいいと思う
年齢を問わず、生涯学習に関心を持ち、学習の楽しさを知ってもらいたい。そういう人たちが、いつまでも学べる環境があればいい	カモイワスキー場を閉鎖しないように、団塊の世代の頑張りが必要	海だけではなく、留萌の穴場、個性のアピールが必要
異文化交流のまち（外国人の移住が多い）	文化とスポーツをミックスしたスポーツ振興（文化は見る、スポーツは自分がやる。「見る」と「楽しむ」。文武両道が必要でありキーワードとなる）	留萌文化の発信のため、市民全体の支援、市民が留萌の文化を守る、作るという意識が必要
国際交流では、年に何回か留萌在住の外国人と交流する機会がある。一市民としては、それ以上できないし、十分ではないか	留萌が「市民には住みやすいまち」、全道には「アピールできるウリのあるまち」になってほしい	市内にある水準の高い文化活動サークルの灯を消さぬようにする
国際交流では、ホームステイの受け入れなど、家族で付き合える環境作りを進めてはどうか	文化財は、どう活用するかが大きな課題	演劇などやっている人は多いが、周りのバックアップが必要
アメリカ、中国の方などに協力してもらい、異文化にふれる機会を設けてはどうか	誇れる、魅力のある、文化的な市（まち）にしよう	シルバー劇団を作って、その活動を視察に来るように誘導してはどうか。高齢者たちが主体となる「地元の元気作り」のためのワークショップができれば
「世界は広い」ということを、子供たちに教えてあげたい	海のふるさと館のリピーターが少ないので、市民もときどき行って、相互に支援することが必要	ロケ誘致やワークショップなど、滞在型の観光のために、合宿など団体の受け入れ策や体制が必要

生涯スポーツを楽しめるまちづくり（世代間交流も）	「快適な都市空間」とあるが、るもいに多くの方が訪れたか疑問だ。留萌の魅力をはっきりさせる必要がある	留萌の歴史を勉強してほしい。まちの将来を考えると、歴史を知ることによって誤った方向へ進まないで済む
獅子舞や黒潮太鼓など、郷土芸能や伝統文化を子供たちへ传承することが必要	教育・文化は、ハード面は意外に充実していると思う。ソフト面の意識が低い。高くしたい	高校より上の学校がなければ、若者に魅力のあるまちにならないのではないか。高校は義務教育化していて、その上のレベルがないと、刺激や励み、魅力にならない
歴史や記憶、雄大な自然を尊重し、共に生きる市（まち）にしよう	図書館などの公共施設を使い、学習の場を増やしてはどうか	ものづくりの人材がいない。日本全体がものを作らなくなっている。留萌でもものを作ることが必要ではないか
質の高い芸術鑑賞のためには、400席前後の設備の整った演劇、音楽空間が必要。ギャラリーも	留萌高校のプラスバンドの生徒が小学生に教えることで相互の技量向上にもなり、小学生は高校生が目指す目標になる	るもいの観光資源（？）の弱さとそのための今後の課題
社会教育（施設・機会）の充実	青少年事業の参加者不足は、原因を究明する必要がある。ニーズを的確に捉えているのか調査が必要	自然のサイクルを再生させるための研究機関ができて、若い人が活躍するようになればいい
観光立国を目指し近隣町村と連携して、道内14支庁中7位以内入りを目標とする	温泉など、観光施設を充実すべき	青少年など若い世代の登用率を伸ばして、まちづくりを真剣に考える若者を増やしたい
都市型観光ではなく、自然と共存する田舎型観光を目指す	留萌特有の目玉となる「観光のスポット」「商品」「人材」があればいい	留萌市内で何か（イベントなど）をやること、それを全道全国にアピールしてはどうか
今は伝統（夕陽など）で人が来なかったとしても、たねを植えて（PRなど）、徐々に興味を持ってもらえばよいのでは	留萌市民自身が、留萌の魅力を再認識して、掘り起こす必要がある。具体化するために、官民のプロジェクトを作り、市民が行動を起こす。都市型観光のまねではダメだ	（イベントは）自分たち（多くの人たち）が関わって作り上げていく必要がある

海と港（海：瑠璃色）

港に力を入れているのもっと生かした何かをするべき	単純に黄金岬の夕陽はきれいだ。黄金岬の岩に打ちつける波、海の色に季節感があり、見ていてあきない。未来へ残したい自然のひとつだ	子供が自然と親しむことができるまち
港まちで、外国人が多いまちだから、いろんな交流ができればいい	物流都市となるために、管内の中継点としての機能を果たす。	森林探検隊などの動きが、自然回帰の力に繋がる。自然を体験する中で、意識的に森やみどり作りを進めるべき
留萌は、留萌と海が連動していないし、知られていない。名前を覚えてもらうことから始めてはどうか	手付かずの自然環境を観光資源にしたらどうか	船場公園では、花壇などは市民活動としてボランティアで管理するなど、市民に目標を持たせ『市民の手で作る公園（モデルとなる）』作りを進めていく必要がある
港の倉庫やふるさと館など、いろいろな取り組みをできる空間があればいい。自由な発想が必要	「環境」がキーワード。人にやさしい環境づくりをメインにした産業作りが必要	

002

パブリックコメント(市民意見の公募)

応募状況：2名／5件

■パブリックコメントの募集期間について

個人のみならず、法人や団体等の意見を募集するのであれば、募集期間が2週間では短い。いままでに行ったパブリックコメントで応募件数が少なかったことを考慮すれば、新たな方策を採るべきだったのではないか。

■総合計画について

自主自立に向けた自治体運営を目指した総合計画を作成し、パブリックコメントを公募することは良いことだと思う。市民の実態を綿密に精査し、常に市民の声を聴取し、総合的に判断して実施計画を策定することに異論はないが、「声のみではなく市職員の実務についての市民調査(目で見える調査)」も考慮して欲しい。市職員全体が強く現状(過去を含めて)を把握し、意識改革できるかが最重要課題ではないか。

■基本政策について

「やる気と活気」について

「やる気と活気」の政策について、障がい者のやる気も応援して欲しい。障がい者も留萌市に仕事がないと他の地域へ出てゆく。また、他の地域の学校を卒業しても戻ってこれないため人口減とつながる。成果指標に、「障がい者の雇用率」と「ジョブコーチ配置人数調査」を入れてはどうか。

「思いやりと安心」について

「思いやりと安心」の政策について、障がい者が安心して、健康で暮らせる地域社会もテーマや内容に組み込んでいくべき。就労の場、生活の場、娯楽・交流の場の確保を計画する必要がある。成果指標に、「障がい者の自立生活度(グループホームで生活している人数やケアホームで生活している人数)」と「年間の娯楽・交流の場(回)」を入れてはどうか。

「対話と信頼」について

「対話と信頼」について、市役所が苦情・要望にどう対応したか、どの程度の時間や日数を要し、どう解決したか、の情報を市民の目にとまる方法(パソコン・市役所へ出向かなくても良い方法)で公開してゆくべき。

参加状況：町内会 6 回 / 169 名、各団体 8 回 / 80 名（13 団体）

■ 総合計画について

- ・第4次総合計画の見直し（反省）があって、第5次総合計画があるのだと思う。第4次総合計画の見直し（反省）点を明示すべき。
- ・総合計画のマネジメントは「いつ、だれが、どのようにするのか」がわからない。PDCAについては、基本計画や実施計画で行われるもので、基本構想にはそぐわない。
- ・既に策定済みの「都市計画マスタープラン」や「中心市街地活性化計画」について、その内容はそっくり新しい総合計画にも当てはまるはず。新しい総合計画の内容と、既存の計画の相関を明示すべき。
- ・基本構想を策定するにあたり、第4次総合計画の検証はしたのか。

■ 成果指標について

- ・数値目標は必要。しかし、主観的なもの（満足度）が多い。成果指標は、客観的に判断できる数値で表せるものでないと困る。
- ・留萌市内の雇用の現状から、市内に残りたくても残れない。進学などで、一度留萌を離れる人は多いと思う。留萌で商売をやっている人たちは、まちに愛着がある人が多い。毎年のUターンの数を指標にしてはどうか。これにより、留萌に魅力を感じる人が増えるのではないか。

■ 自治基本条例について

- ・自治基本条例については、市民と市の責務について触れているが、議会と審議会のあり方についても触れるべきではないか。
- ・既存の条例については、自治基本条例との整合性を図り、見直し又は廃止をきちんとすべき。

■ 分野別意見

● 商店街

- ・重点として、人口減に歯止めをかける必要がある。人が減れば、商売が出来なくなる。
- ・留萌の商店街はおもしろくない。
- ・基本計画は5年というレベルだが、商店街の売り上げが1割ずつ落ちており、お店も減ってきている中で、対策が間に合うのか疑問。
- ・一度留萌を離れて帰ってきたとき、以前よりもまちに活気がないと感じた。

● 雇用及び労働

- ・地元就職したくても働く場がない。雇用対策をお願いしたい。
- ・市のU・I・Jターンに対する助成制度があるが、広く市民等に知られていない。なぜ知らせないのか。PR不足でヘタ。市は、助成制度を作ったことだけで自己満足しているのではないか。

● 住居表示・町名及び町界

- ・通称と戸籍上の住所名があるため、各種手続きの際に不便。統一してほしい。

● 道路・橋りょう

- ・花園町（合同庁舎前）の歩道橋が古く、歩くのが怖い。

● 市民活動

- ・市で、他の（様々な）団体が懇談できる場をセッティングして欲しい。
- ・市民のまちづくりへの参加には、「きっかけ」が必要だと思う。
- ・地域のことより、自分たちのことを考える人が増えた。

● 地域センター病院

- ・病院経営は、院長の経営手腕に問題があるように感じる。
- ・病院入院時の食事には、留萌産米を使用すべきでないか。
- ・市立病院に信頼できる医師の確保をお願いしたい。
- ・医師不足を解消して欲しい。

● 農林漁業

- ・礼受漁港のことを考えてほしい。
- ・農業者や漁業者の担い手不足の問題がある。小平町では、中国人の研修生受け入れ、他市ではUターン事業などを行っている。
- ・農業離れによって地域の人口が減少したことで、荒れてしまった幌糠神社の整備もできない状況。

● 省エネルギー

- ・市の資源を大切にするための施策は、どのようなものがあるのか。

● ごみ・一般廃棄物

- ・ごみの分別が始まったことで、公共施設のゴミ箱が撤去された。それにより、マナーの悪い人がごみを置いて帰っている。ゴミ箱を設置したほうがいい。

●生活環境

- ・路線バスの運行ルートについて、住之江町など巡回しない場所があるので不便。

●除雪

- ・除雪については、市内を数ブロックに分け、各ブロックに雪の置き場を設けてはどうか。

●防災

- ・災害時に緊急連絡が取れるシステムを整備して欲しい。

●子ども未来・少子化

- ・子どもの育成で、留萌ならではの、特色のあるライセンスを取得できる環境づくりと、取得しやすい環境づくりを検討してみてもどうか。

●学校教育

- ・幌糠に学校が無くなれば、Uターンで帰ってくる人はいなくなるだろう。
- ・進路指導の際に、高等看護学校への入学希望者が多い。

●スポーツ

- ・増毛の屋内スポーツ施設を留萌にも建設して欲しい。
- ・若者の間でバスケの人気の高い。屋外でできる施設が欲しい。

●観光・イベント

- ・ニセコ町みたいに、自然を活かせばいいと思う。
- ・「道の駅」はできないのか。
- ・留萌は自然はいいが、それ以外に魅力を感じない。よその人に街の魅力を聞かれても答えられない。
- ・礼受牧場は、景色以外に魅力がない。
- ・観光客に魅力を聞かれても困る。留萌には目玉になるものがない。るもいブランドを創ればいいと思う。
- ・今ある物を活かしてやるのもいいが、新しい施設が欲しい。例えば、動物園など。

●公園・緑地

- ・公園の数は足りていると思うが、小さい公園は設備がブランコしかないなど、遊具が減っている。
- ・公園ごとにテーマを設けて整備すれば楽しいものになると思う。
- ・公園について、古くて、整備が行き届いていないので、小さな子どもが使える公園にして欲しい。

●自然

- ・大きな買い物は、旭川や札幌に行く。今までは、留萌に同じものがあればと思っていたが、最近になって考え方が変わった。建物が多くとリラックスできない。留萌は今のままの自然を残すべきだと思う。

●留萌港

- ・港に親しむとあるが、本当に親しめる港なのか疑問。海や山などの自然を活かし、留萌のいい思い出づくりや市民が参加し楽しめるものを考え、実施して欲しい。

● 広報広聴

- ・市には、市民からの要望や苦情の窓口があると思うが、どのような内容があるのか、公開してもらえないか。景気を良くするために我々に何かやってくれといわれても困るが、一つでも問題等を解消できるか考えてみたい。

● 総合計画

- ・今回の素案は、市民の声をどれだけ吸い上げてまとめたのかという疑問がある。作業時間も少なく、市民が理解・納得する前に始まってしまっているのではないかと。
- ・総合計画は、漠然とした内容。こういうものを策定してなんとかなるのか疑問。実感がわからない。夕張市では中学生も一緒にまちの復興を考えている。まずは、まちがつぶれないために、どうするのかを考えるべきではないか。そのために留萌の現況を示すのが先ではないか。うわべだけでなく、本当の意味での情報を提供すべき。(ちまたでは、留萌市が赤字を出したことすらあまり知られていない)

● 財政

- ・経済の勉強をした際に、留萌市の財政が赤字だったことを知った。その後、テレビを見て詳しい内容を知った。もっと情報を流したほうが良いと思う。

■ 土地利用

- ・市が所有する土地を有効に活用してほしい。

資料編 その2

成果指標と達成目標

1 [やる気と活気]

2 [思いやりと安心]

3 [自然と資源]

4 [暮らしと安心]

5 [夢と宝]

6 [海と港]

a [対話と信頼]

【参考データ】 [人口の推計]

留萌を彩る 6つの基本政策	成果指標	指標設定の考え方	基準値	目標値	目標設定の考え方 と指標の取り方	備考
1 やる気と活気	生産年齢人口に対する就業人口の割合	雇用対策が推進されたのかを測る	76.3%	→	国勢調査（5年ごとの10月1日に実施）	有業者数÷生産年齢人口（15歳～64歳）×100
	製造品等出荷額	産業振興が推進されたのかを測る	235.4億円	→	工業統計調査の製造品等出荷額	基準値は、2001（H13）～2005（H17）年の実績の平均値
	商品販売額	産業振興が推進されたのかを測る	813.8億円	→	商業統計調査の商品販売額	基準値は、2004（H16）年の実績値
	10年以上留萌に住んでいる市民の割合	定住対策が推進されたのかを測る	69.5%	→	市役所市民課「住民基本台帳」から、10月1日現在で「10年以上継続して留萌に住んでいる市民の割合」を算出	基準値は、2006（H18）年の数値
2 思いやりと安心	町内会加入率	地域コミュニティ育成が推進されたのかを測る	83.2%	90.0%	市役所市民サポートグループ調べ	基準値は、2005（H17）年の数値
	国民健康保険の一人当たり1年間の医療費	健康づくりが推進されたのかを測る	196千円	186千円	市役所市民課調べ（国民健康保険事業特別会計）	基準値は、2005（H17）年の実績値
	老人医療の一人当たり1年間の医療費	健康づくりが推進されたのかを測る	930千円	883千円	市役所市民課調べ（老人保健事業特別会計）	基準値は、2005（H17）年の実績値
	地域医療に対する満足度	地域医療に対する満足度の向上を目指す	10.6%	60.0%	市民満足度アンケート	基準値は、2006（H18）年調査の数値
	老後の生活不安度	老後の生活不安度の減少を目指す	89.4%	40.0%	市民満足度アンケート	基準値は、2006（H18）年調査の数値

※目標値は、基本構想最終年度の2016（H28）年度

留萌を彩る 6つの基本政策	成果指標	指標設定の考え方	基準値	目標値	目標設定の考え方 と指標の取り方	備考
3 自然と資源	農業生産高	農業振興が推進されたのかを測る	780.0百万円	→	農林水産省「農業産出額」、農林水産関係市町村データ(年産)	基準値は、2001(H 13)年～2005(H 17)年の実績の平均値
	漁業生産高	漁業振興が推進されたのかを測る	748.8百万円	→	市役所農林水産課調べ	基準値は、2001(H 13)年～2005(H 17)年の実績の平均値
	一件当たり1年間の電灯電力量	省エネルギー対策が推進されたのかを測る	3,612kw	やや↓	北海道電力「需要電力の推移」「電灯」には、一般家庭分と街灯分が含まれる	基準値は、2001(H 13)年～2005(H 17)年の実績の平均値
	エネルギーや資源の有効利用や節約をする気持ちのある市民の割合	エネルギーや資源の有効利用や節約をする気持ちのある市民の増加を目指す	17.3%	65.0%	市民満足度アンケート	基準値は、2006(H 18)年調査の数値
	地元産品であることを意識して商品を選択する市民の割合	地元産品であることを意識して商品を選択する市民の増加を目指す	51.7%	65.0%	市民満足度アンケート	基準値は、2006(H 18)年調査の数値
4 暮らしと安全	市民一人が1日に出すごみの量	環境保全が推進されたのかを測る	632.1g ^人	600.0g ^人	市役所生活環境課調べ。一般家庭から出される全てのごみ(種別問わず)が対象	基準値は、2005(H 17)年の実績値
	その年度の税や住宅使用料、水道料金などの総体の収納率	まちの運営に直結又は関係する金銭的負担の意識が浸透しているのかを測る	98.0%	98.0%	市役所(税務課、建築指導課、水道管理課、下水道課)調べ。	「収入額÷調定額×100」 基準値は、2005年に策定した財政再建計画の目標値を採用
	普段から災害への備えをしている市民の割合	普段から災害の備えをしている市民の増加を目指す	31.5%	60.0%	市民満足度アンケート	基準値は、2006(H 18)年調査の数値
	除雪満足度	除雪の満足度の向上を目指す	30.1%	60.0%	市民満足度アンケート	基準値は、2006(H 18)年調査の数値
	清潔で安心して、暮らしやすいと感じる市民の割合	清潔で安心して、暮らしやすいと感じる市民の増加を目指す	31.3%	60.0%	市民満足度アンケート	基準値は、2006(H 18)年調査の数値

※目標値は、基本構想最終年度の2016(H 28)年度

留萌を彩る 6つの基本政策	成果指標	指標設定の考え方	基準値	目標値	目標設定の考え方 と指標の取り方	備考
5 夢と宝	年齢別人口で見 る子ども(0歳～ 14歳)の割合	少子化対策が推 進されたかを測 る	12.5%	→	市役所市民課 「住民基本台帳」 による。毎年10 月1日現在で算 出	「0～14歳の子 どもの人口÷総 人口×100」 基準値は、2005 (H17)年の実 績値
	観光客入り込み 数	観光振興が推 進されたかを測 る	256.4千人	332.0千人	市役所商工観光 課調べ	基準値は、2005 (H17)年の 実績値
	留萌の文化や歴 史を大切にしたい と思う市民の 割合	留萌の文化や歴 史を大切にしたい と思う市民の 増加を目指す	79.6%	90.0%	市民満足度 アンケート	基準値は、2004 (H16)年の実 績値
	自ら生涯学習活 動(芸術・文化・ス ポーツなど)に取 り組んでいる市 民の割合	自ら生涯学習活 動に取り組んで いる市民の増加 を目指す	29.9%	65.0%	市民満足度 アンケート	基準値は、2006 (H18)年の数 値
6 海と港	留萌港に魅力や 親しみを感じる 市民の割合	留萌港に魅力や 親しみを感じる 市民の増加を目 指す	21.6%	60.0%	市民満足度 アンケート	基準値は、2004 (H16)年の実 績値
	留萌の自然が素 晴らしいと思う 市民の割合	留萌の自然が素 晴らしいと思う 市民の増加を目 指す	62.6%	80.0%	市民満足度 アンケート	基準値は、2006 (H18)年の数 値

留萌を彩る 6つの基本政策	成果指標	指標設定の考え方	基準値	目標値	目標設定の考え方 と指標の取り方	備考
2 対話と信頼	財政の健全度① 経常収支比率で 見る全道ラン キング(35市中 の順位)	財政状況が健全 であるのかを測 る	29位	18位	北海道庁市町村 課、全道市長会 調べ	基準値は、2005 (H17)年の数 値
	財政の健全度② 市民一人当 たりの地方債残高 で見る全道ラン キング(35市中 の順位)	財政状況が健全 であるのかを測 る	29位	18位	北海道庁市町村 課、全道市長会 調べ	基準値は、2005 (H17)年の数 値
	職員の信頼度	職員の信頼度の 向上を目指す	19.0%	100%	市民満足度 アンケート	基準値は、2006 (H18)年の数 値

※目標値は、基本構想最終年度の2016(H28)年度

【参考データ】 [人口の推計]

		1995	2000	2005	2010	2015	2020
人口推計	国立社会保障・人口問題研究所	30,060	28,325	26,826	24,449	22,391	20,263
	統計情報研究開発センター				24,439	22,310	20,109
		確定値(国勢調査)			推計値		